

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名 一般国道155号 <small>とよたみなみ</small> 豊田南バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局	
起終点 自：愛知県豊田市駒場町 至：愛知県豊田市逢妻町		延長 12.9km	
事業概要 一般国道155号は愛知県常滑市を起点とし、名古屋市周辺に散在する内陸工業都市を連結し、愛知県弥富市に至る延長約160kmの環状幹線道路です。このうち、豊田市を通過する現道は中心市街地を通過するため、交通混雑が多発しています。一般国道155号豊田南バイパスは、中心市街地を迂回する道路であり、交通の円滑化、物流の効率化、地域経済の発展・促進、地域内外の交流・連携を目的として事業を推進しています。			
S48年度事業化	S39年度 都市計画決定 S47年度 都市計画決定	S50年度 用地着手 S58年度 工事着手	
全体事業費 790億円 事業進捗率 48% 供用済延長 8.1km			
計画交通量 47,900台/日			
費用対効果分析結果 B/C (事業全体) 2.3 (残事業) 3.6	総費用 (残事業)/ (事業全体) 275/976 億円 (事業費) : 239/863 億円 (維持管理費) : 36/113 億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) 993/2,283 億円 (走行時間短縮便益) : 963/2,240 億円 (走行費用減少便益) : 20/31 億円 (交通事故減少便益) : 10/12 億円	基準年 平成19年
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（幹線道路の交通混雑緩和） ・物流効率化の支援（衣浦港のアクセス強化） 他 6項目に該当			
関係する地方公共団体等の意見 衣浦豊田道路建設推進協議会（会長：刈谷市長）より早期整備要望			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・豊田市の人口増加・豊田市の工業の発展・衣浦港の発展・豊田市の道路混雑			
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・事業進捗率は48%、用地取得率は78%（平成19年度末見込み）。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・平成20年代前半に（主）豊田安城線～153号豊田西バイパス区間供用予定。 ・平成20年代後半に153号豊田西バイパス～国道155号（現道）区間供用予定。			
施設の構造や工法の変更等 ・現道供用部におけるアンダーボックス先行施工の採用、仮設構造物の本体利用の採用により、コスト削減を図ることとしている。今後は、工期短縮による事業効果の早期発現を目指し事業を推進する。 ・代替案として考えられる現道の国道155号の拡幅は、住居連担地区であり計画の変更は困難。			
対応方針 事業継続			
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。			
事業概要図 			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。